

FieldView では以下の3 種類のport を利用します。

- ① ライセンス管理モジュールImgrd サービス（デーモン）が利用するポート
- ② FieldView 固有サービスであるilight サービス（デーモン）が利用するポート
- ③ クライアント-サーバ機能が利用するポート

以下の青色背景部はライセンスファイルのサンプルです。

① lmgrd サービス (デーモン) が利用するポート番号。メールでの配信時点では

- Windows の場合 : 7788
- Linux の場合 : 1602

となっております。

② ilight サービス (デーモン) が利用するポート番号  
メールでの配信時点では無記入で、マシンが自動割当を行います。こちらの例のような明示指定も可能です。

```
SERVER aphrodite 001c238f9e47 7788
DAEMON ilight "C:¥Program Files¥FieldView CFD¥FVWIN19¥bin¥ilight.exe" port=7497
INCREMENT pfv8 ilight 19.000 30-sep-2020 1 DEFF36GD3CEA5B21B068 ¥
VENDOR_STRING="fv every dg" SUPERSEDE ISSUED=12-dec-2019 ¥
SIGN="0002 1DE0 830D 5B27 3629 677B 5032 BA00 F4C6 A935 CEDE ¥
3787 78BB 7DE5 1967"
```

## 《クライアント-サーバ機能》

FieldView では起動時にクライアント-サーバ機能 (FieldView Parallel 含む) で使用する通信ポートを、その機能利用の有無に問わらず確保しようとします。

※これは、ライセンス関連のポートとは別のポートです。 (詳しくはFAQ のPL001 参照)

通常は12345 番のポート番号 が使われますが、 -portオプションで変更可能です。

書式)

-portxxxxx : xxxxは任意のポート番号

例)

-port 54321 : 54321番のポートを使用

-port none : ポート確保をしない (クライアントサーバ機能は利用できない)

ポート指定の方法 (Windowsの場合)

- 1) スタートメニューのFieldViewアイコンを「右クリック」 - 「その他」 - 「ファイルの場所を開く」で開く
- 2) FieldViewショートカットアイコンを右クリックしてプロパティを表示
- 3) 「リンク先」欄の末尾に「-port xxxx (任意のポート番号)」などと指定します。